

なし「にっこり」トップブランド安定生産技術の実証

要約

着果数を 6.0 果/㎡にすることにより、平均果実重が 1200g を越える大玉果実を得ることが出来る。環状剥皮処理は、高い果実糖度を示したものの、果実肥大が抑制されたり、果肉障害の発生率が高まることから、満開後 100 日処理では課題が残った。

○ 展示のねらい

着果制限と側枝の環状剥皮処理、スコアリング処理の組合せにより、「にっこり」の品種特性を最大限生かした大玉果 (1200g 以上) 及び高糖度 (糖度 14.0%以上) の生産技術を実証する。

○ 主な成果

表 1 果実肥大の推移と果実重及び収穫時着果数

処理区	果実横径 (mm)					果実重 (g)	収穫時着果数 (果/㎡)	
	30 日	60 日	90 日	120 日	収穫時		樹 1	樹 2
環状剥皮区	27.8	42.8	59.8	92.8	131.6	1238		
スコアリング区	27.1	41.9	59.1	89.6	132.4	1227	6.2	6.0
無処理区	26.6	41.6	57.8	89.2	133.7	1250		

果実横径は、満開後 30 日から満開後 120 日まで環状剥皮区>スコアリング区>無処理区の順であったが、収穫時には逆転し、無処理区>スコアリング区>環状剥皮区の順となり、環状剥皮処理により肥大が抑制されたことが示唆された。また、果実重は処理区にかかわらず 1200g を上回った。

表 2 非破壊果実糖度と障害果率

処理区	果実糖度 (Brix%) ^{※1}			糖度 14%以上の果実割合 (%)	障害果率 (%) ^{※2}
	FBI30	収穫始	収穫盛		
環状剥皮区	10.7	13.6	13.6	26	50
スコアリング区	10.3	13.1	13.1	5	36
無処理区	10.4	13.0	13.0	0	21

※1 果実糖度は、フルーツセレクター (K-BA100R) で測定した非破壊糖度

※2 障害果は、「なし果実生理障害判定基準」の程度 1 以上のものとした

非破壊糖度は、環状剥皮区が最も高く、スコアリング区と無処理区ではほとんど差が無かった。しかし、糖度 14%以上の果実が、無処理区では 0%だったのに対し、スコアリング区は 5%、環状剥皮区では 26%発生した。障害果率は、環状剥皮区が 50%と高い値を示した。

○ 今後の方向性

環状剥皮の処理時期を検討する。また、外周部の果実は糖度が高くなる傾向にあることから、環状剥皮とスコアリングの処理位置と糖度の関係を調査し、トップブランド果実の生産技術を検証する。

実施機関：下都賀農業振興事務所経営普及部 実施場所：小山市

問合せ先：栃木県農政部経営技術課技術指導班 TEL 028-623-2322 FAX 028-623-2315